

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和2年 4月15日（水）

### 2 確認箇所

- ・ J1東タンクエリア
- ・ 1/2号機共用排気筒（1/2号機開閉所前から確認）

### 3 確認項目

- （1） J1東タンクエリア内堰内雨水の全ベータ放射能濃度上昇事象への対応状況
- （2） 1/2号機共用排気筒解体工事の状況

### 4 確認結果の概要

- （1） J1東タンクエリア内堰内雨水の全ベータ放射能濃度上昇事象への対応状況について

3月3日に確認されたJ1東タンクエリア（図1、2、写真1）の内堰内雨水の全ベータ放射能濃度上昇事象<sup>※1</sup>への対応状況を確認した。

（前回確認：3月6日）

- ・ 3月4日に実施されたサイドマンホールや連結弁の線量調査で高い線量率が確認されたB6及びB8タンクのサイドマンホールだけではなく、ストロンチウム処理水<sup>※2</sup>を貯留していた他のB群タンクのサイドマンホールもプラスチック製の袋とシートで養生されていた。（写真2）
- ・ 同様に高い線量率が確認されたB6タンクとB5タンク間の連結弁の他、B6タンクとB7タンク間の連結弁もプラスチック製の袋で養生されていた。（写真3）
- ・ 堰内の雨水を回収し、吸引車でプロセス主建屋（建屋内の滞留水を地下階に貯留している建屋）に移送する作業を行っていた。（写真4）

※1 令和2年3月3日に、J1東タンクエリア（溶接型タンク28基：ストロンチウム処理水貯留タンク8基（B群）、多核種除去設備処理水貯留タンク20基（A、C、N群））の堰内雨水の定期サンプリングにおいて、全ベータ放射能濃度が3ヶ月前のデータより約100倍（令和元年12月2日：約2.9Bq/L→令和2年3月3日：約250 Bq/L）に上昇していることが確認された事象であり、雨水は堰内に留まっており外部への漏えいはなかった。

3月4日の再サンプリングにおいてもほぼ同レベルの放射能濃度が確認されており、同日行われたタンクのサイドマンホールや連結弁の線量調査では、ストロンチウム処理水の水抜き作業を実施したB群タンク廻りの3箇所で線量率の高い箇所が確認されたが、当該箇所からの漏えいは確認されていな

い。また当該箇所については雨水による汚染拡大防止を図るため養生が実施された。

※2 セシウム吸着装置により汚染水に含まれる放射性物質の大部分を占めるセシウムとストロンチウムを除去した水であり、その後、多核種除去設備によりトリチウム以外の大部分の放射性物質が取り除かれる。

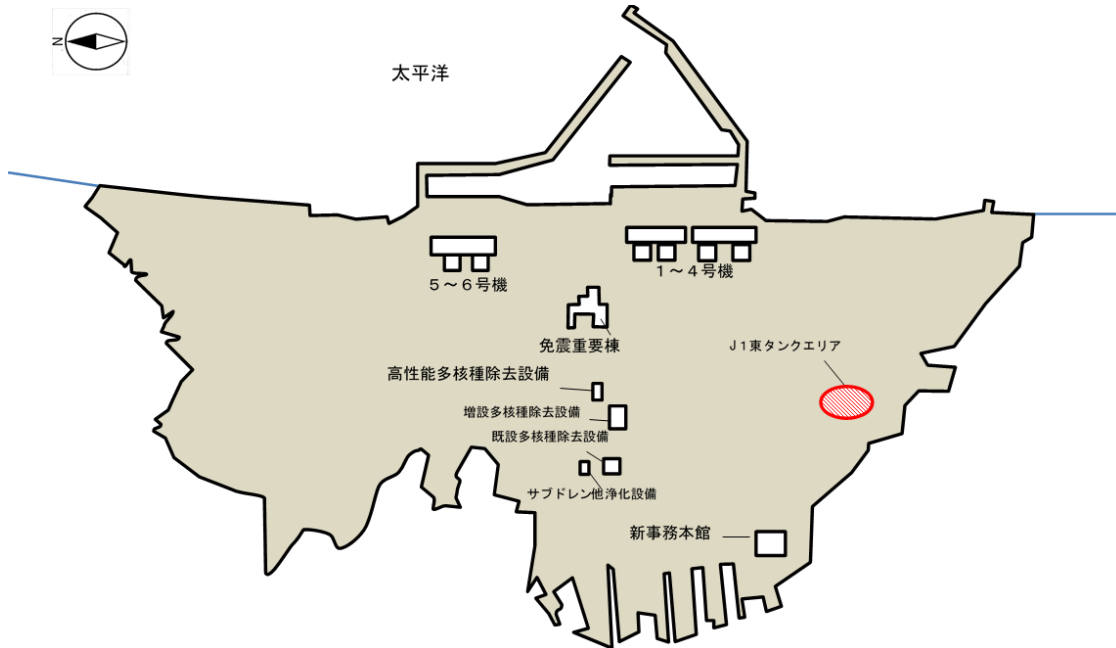


図1 福島第一原子力発電所構内概略図

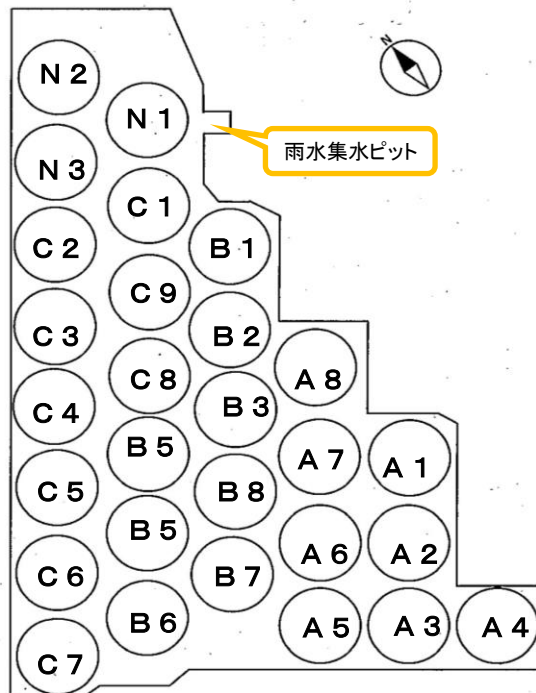


図2 J1東タンクエリア配置図



(写真1)  
 J1東タンクエリアの外観  
 (エリア南側を東側から撮影)



(写真2)  
 サイドマンホール養生の例  
 (B3タンク)  
 ※プラスチック製のシートの中に袋養生されたサイドマンホールがある。



(写真3)  
 連結弁養生の例  
 (B6-B7間の連結弁)



(写真4)  
 吸引車による堰内雨水の回収状況

(2) 1 / 2号機共用排気筒解体工事の状況について

1 / 2号機共用排気筒解体工事は、4月7日に18ブロック目の解体が完了し、4月8日から19ブロック目（鉄塔）の解体作業が開始され、4月15日からは20ブロック目（筒身）の解体作業が開始されたことから、作業の進捗状況を確認した。なお、19ブロック目（鉄塔）と20ブロック目（筒身）の解体は、一連の作業として行われている。

- ・現地確認時（11時35分頃）には、20ブロック目の筒身50%の切断が終了し、支柱切断装置の位置合わせを行っているところであった。

（写真5）



（写真5）

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。